



「環境教育から発展し、自然との関わりを持たせる
ためにも人との関わり・思いやりが大切なんです。」

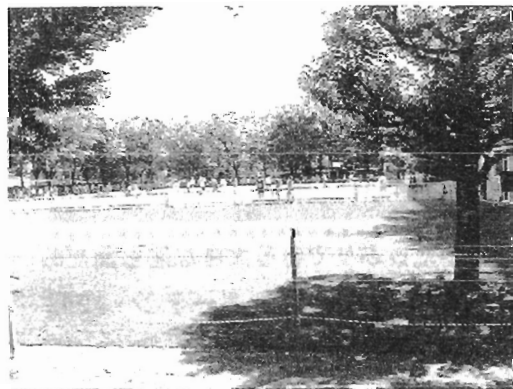
環境教育の伝統を引き継ぐ 金沢小学校

いたばし
ビオトープ
ネットワーク
学校訪問シリーズ 4

今から10年前の平成7年当時、まだ、総合的な学習の時間の内容が明確ではなかったころ、東京都の中で環境教育をいち早く始めた金沢小学校。総合的な学習の時間の模索が続くその後の研究の成果は多くの人の知るところです。5月、校内にある2,000本といわれる豊かな樹木は、したたるような緑陰をつくり、青葉の美しさと、木陰を歩いてきた心地よい風に、全身が洗われるようです。この学校がさらに学校緑化を目指し、校庭に1,000m²の芝生を植え、緑のカーテンにも取り組む計画と知り、そのお考えを伺いにSOEは早速おたずね致しました。



青々と育つ芝を見ながら、思いを語る白木校長先生



校庭で遊ぶ子どもたち（手前は芝広場）

Q—今の子どもたちの様子はいかがですか。

白木信子校長先生—679人いる子どもたちは、多様化していて、十把一絡げには出来ません。全体に明るく元気な子が多いのですが、疲れている子と2極化していますね。傾向として3年生ぐらいから、塾通いが始まり学校と塾と両方ががんばる子、塾だけでいっぱいの子がいます。それでも、放課後遊びには、60～70名の子が残って4時まで遊んでいます。

Q—平成14年に出来たビオトープやその他の環境をどのように活用されているか教えてください。

白木信子校長先生—情報・環境委員会が観察内容を発表しています。狭い水辺に、カエルやオタマジャクシがいっぱいいます。クロメダカも大きくなっています。普段は、子どもだけで踏み込まないように、担任と一緒に観察し、大切にしています。トンボの種類は6種類を数え、鴨がきたり、いろいろな鳥がやってきたりしています。

子どもたちは、これまでの環境教育の伝統を受け継ぎ、木の実を採集する楽しみを持っています。学年の木が決まっているので、そこになった実を取って食べたりしています。

いたばし ■ ビオトープネットワーク

4年生は夏みかんを採集して夏みかんカンテンを作り、1年生はギンナンを拾ってゆでて食べました。2年生と4年生がサツマイモで、スイートポテトをつくり、6年生が梅を収穫し梅干しをつくっています。また、1年生が2年生に「豊ゆづり」集会(学年末に各学年が、自然から学び取った成果を下級生に教え伝えていく活動)で教えてもらったアサガオのリースづくりを、4年生がサツマイモのリースづくりを行っています。どの学年も校内の樹木の枝(ソダ)を素材にしてビオトープの垣根をはじめ、様々な学習に使っています。また、ボランティアの方やエコポリスセンターの協力を得て、5年生が美しいヤマブキ色のタマネギ染めを体験し、今年は草木染めに挑戦する計画です。

Q—新しい取り組みの緑のカーテンの規模や、芝生化等のねらいを教えてください。

臼木信子校長先生—緑のカーテンは、3教室分です。自然との関わりを育てるためには、無理のない形で、自然を広げていきたいと考えました。校庭は、一部芝生化にしました。

Q—緑のカーテンや校庭の芝生の維持・管理に子どもたちをどのようにかかわらせたいですか。

臼木信子校長先生—子どもたちの情報・環境委員会がビオトープの観察を行い毎月のニュースでお知らせしています。これから、この中に緑のカーテンも入ってくるでしょう。4年生の学習としても、取り組んでいきます。また、栽培委員会が花壇の維持管理育成に取り組んでいるので、そこに芝の管理が入ってくると考えています。

Q—学校環境の維持・育成のために、これからの取り組みを教えてください。

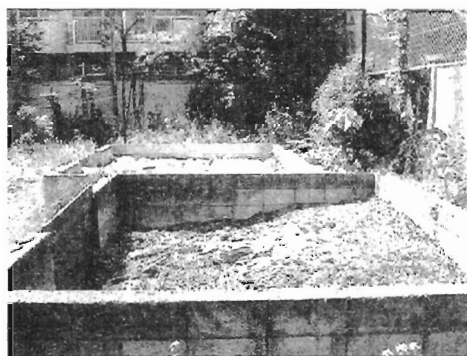
臼木信子校長先生—子どもたちや、学校だけで出来ることではありません。学校の森全体の維持・管理を地域の人と共に取り組み、地域に還元していくことが必要です。そこで、今年は、ケヤキの落ち葉でつくった腐葉土200袋を、「板橋の一品」として区に応募したら、認められ予算がつきました。

岩佐富雄副校長先生—地域の人と学校の緑委員会をつくります。学校の森・緑のカーテン・校庭の芝生・畑・ビオトープなどの維持・管理・育成です。メンバーは学校側・ボランティア・PTA・

オヤジの会などです。樹木医が学校の運営協議会委員の一人です。あと、ビオトープ作成の専門家に年に1回きて頂いて6年生が総合で学んでいます。寺子屋の金沢くらぶで、板橋の野鳥の専門家をお呼びして、荒川の自然観察に行ったり、日光移動教室の野鳥観察を引率してもらったりしています。

Q—今、子どもたちにつけたい力は何でしょうか。

臼木信子校長先生—子どもたちが、人と関わりを持てるか



腐葉土がたっぷりできる大きな落ち葉だめ



.....
ビオトープに立つ岩佐副校長先生

センスオブアースは板橋区内の学校ピオトープの情報化、ネットワーク化を進めています。

どうかですね。集団で関わり、人とのかかわり方—自己表現できることも含め—を学ばせる必要があると思っています。

環境教育から発展し、自然との関わりをするためにも、人とかかわりを持つこと、例えば、学級・学年・異学年・縦割り集団、地区子ども会のような異学年の交流、地域の人々との交流、幼稚園保育園の子どもの交流など、人と接する機会をつくるのが大切だと思います。

Q—そういった関係をつなぐもの、介在するものが必要と思うのですが。

白木信子校長先生—金沢子どもまつりの取り組みで、さまざまな方々を招待するのです。年間を通して、1年生は2年生から教わったことを元に200名ぐらいの幼稚園保育園のこどもたちと生活科の授業で、交流している、2年生は地域のお年寄りに昔遊びを教わり、交流給食をしている、3年生は隣にある寿栄園（特別老人ホーム）に行き、年3回の交流をしている、4年生はその後、寿栄園のお年寄りを招いて、車いすを押して校内を案内して歩く、5年生は幼稚園保育園の入学予定の200人位の子どもたちと父母に、学校を案内している、そして、秋の金沢子どもまつりに、学年毎に交流してきた方々を招待しています。子どもまつりの特徴は、再利用の物を使うこと、自然の物を使うこと、ゴミを出さないことです。自然をかならず取り入れます。例えば、フィールドピッチは、におい・手で触る・写すなどです。他に、ドングリゴマ・しおりづくり・葉っぱの船の競争・ピオトープの生きものを顕微鏡でのぞく等です。

Q—子どもたちの変化はいかがですか。

白木信子校長先生—子どもたちの説明が上手になり、役割分担をして、お互いのよさを認め合っています。相手のことを思いやれるようになってきたと思います。体育の授業でも、作戦の相談などで、役割分担や係の分担でお互いのがんばりを認めるようになってきました。

Q—保護者への働きかけなどはいかがですか。

白木信子校長先生—小学生時代の生活を大事にして下さい、そして、進路などで子どもとの話し合いを大切にしてくださいと申し上げます。

Q—保護者のオヤジの会などはどんな活動をしていますか。

白木信子校長先生—大きな取り組みとして、夏のキャンプファイヤーです。これには子どもたち、数百人が参加しています。飯ごうでご飯を炊き、カレーを作り、130人位が学校に宿泊します。1・2年生は父母も一緒に泊まり高学年は、音楽室や図書室などにも泊まります。あと、冬のイベントとして、PTAの行事で餅つきを行います。6年生が米とぎをし、500人以上参加します。

Q—最後に、子どもたちや、先生方に期待したいことは何でしょうか。

白木信子校長先生—子どもたちに感動を与えるためには、



子どもたちがかけた巣箱

自分が心を動かさないと子どもも感動させることは出来ないと思っています。教師がいろいろなポケットを持っていて、いろいろな体験をしていくことが大切なので、どんどん研修など出張させたいと思っています。先生方が決まったものだけをやっているのではなく、～～をやりたいという先生の言葉を聞くと、思わず「いいじゃない！」と言ってしまうほど、とても歓迎しています。



お忙しい中、校内を案内もしていただき、緑が堪能できたひとときでした。休み時間、ノーチャイムですすんで、時計を見て、教室に帰る子どもたちに、校庭の青々として育つ芝生についてひと言感想を聞きました。「美しい。うれしい。豊かな気持ちになる。」6年生。「早く遊びたい。」「寝っ転がりたい。」4年生。早く実現できるといいですね。

環境省が出している『わが国におけるESD（持続可能な開発のための環境教育）の課題』の中で、人づくりの二つ目にこうあります。『他人、社会、環境との「関わり」「つながり」を尊重できる個人を育む』と。金沢小の“人との関わり”の取り組みと重なります。



SOE 観察会（対象～小学生以上。参加ご希望の方は6月11日までにお申し込みください）

鳥や虫たちの通り道をたどるミニ探検に行こうin板橋・蓮根・荒川

“NHK生活ほっと”“子ども電話相談室”の **6月17日(土) 10時～** 現地集合・現地解散 **参加費無料**
藤本和典さんと歩く
 於・板橋区立蓮根第二小学校校庭ピオトープ前集合
 荒川土手（板橋区自然生態園付近まで）を散策します

駅までの道、学校までの道、仕事場までの道…。私たちの日常生活にかかせない「道（道路）」があるように、鳥や虫たちにも「コリドー（回廊）」があります。鳥や虫たちの道？ そこには標識も信号もありませんが、彼らが残した印があるんです。その印をたどって行くと…。彼らがどうしてそこを通るのか？ その訳がわかると、鳥や虫たちの生活が少しみえてくるかもしれません。今回のミニ探検（観察会）には、「子ども電話相談室」の回答者としても活躍されているナチュラリスト、藤本和典先生が皆さんを荒川までナビゲートしてくれます。ぜひ親子でご参加ください。

コース：蓮根第二小学校～ 新河岸川～ 荒川土手・自然生態園近辺で昼食後解散（全行程徒歩）
 持ち物：昼食、飲み物（アルコールは不可）、筆記用具、雨具（天気予報参考）双眼鏡（持っている方）など
 ※履きなれた靴でご参加ください。

◎参加者が多数の場合は、コースを変更する場合がありますので、事前にご確認ください。

お申し込み お問い合わせは
 電話 03-3960-6052 または Eメール info@npo-soe.jp センスオブアースまで

寺田 茂 監修 「学校ほど愉快なところはない」ビデオ版が
 青山の地球環境パートナーシッププラザ（国連大学1F）で上映されます。 主催 センスオブアース

6月24日(土) 13時～17時
 於 地球環境パートナーシッププラザ（GEIC）
 東京都渋谷区神宮前5-53-70 国連大学1F
 申込・お問い合わせは GEIC環境映像上映会担当：美濃部さんへ
 www.geic.or.jp/geic/2006/news/0606_video.html
 tel 03-3407-8107
 SOE発足の原点、板橋区立蓮根第二小学校の学校ピオトープ。教師、子どもたち、保護者、行政、地域の人々がピオトープを創ることを通して得たものとは、80分におよぶその記録映像を、東京青山のGEIC展示室の大スクリーンでぜひご覧ください。

発行 特定非営利活動法人 センスオブアース・市民による自然共生パンゲア
 東京事務所 東京都板橋区前野町4-8-6 (〒174-0063) phone: 03-3960-6052 fax: 03-3960-6053
 e-mail: info@npo-soe.jp url: www.npo-soe.jp